

★わたしのおすすめ・韓国児童文学施設案内

李 姪 炫 イ ジョン ヒョン

釜山からソウルへ

春がくるのを待っていたわたしは、海の風に乗って釜山に向かった。同行したのは韓国が大好きで現在韓国語を習っている日本人女性三人。彼女たちを誘って韓国の文学散歩に出かけたのは、まだ風の冷たい三月末のことだった。

出発地は大阪港。パンスターフェリーに乗ったのは午後三時で、出航したが四時くらいだったと覚えている。船の中で夕食をとり入浴、ゆっくりくつろいで目覚めたところで再び船内で朝食。

釜山に降りたのは、出発から一八時間後の翌日午前〇時くらいだった。

釜山は冷たい大阪の風とは違い、暖かい春の風が吹いていた。まるで、わたしたちを温かく迎えてくれるかのようでひとまづほっとした。

さっそく第一の目的地である「李周洪文学館」に向かった。釜山港から一時間ほど地下鉄にゆられ明倫洞駅に着くと一五分ほどのところに現代式の立派な建物が立っている。

■李周洪文学館

李周洪文学館は、作家李周洪（一九〇六〜八七）が七一年から亡くなるまでの一六年間を過ごした家屋を新築移転したもので、一階は市民図書館や文学セミナー、文学討論などの場所として活用され、二階は生前の李周洪の書齋を再現した部屋をはじめ、彼の作品や遺品などが展示されている。

李周洪と言えば、韓国の児童文学史に多くの業績を残した児童文学作家である。二〇年代から児童文学作品を創作、発表をはじめ、韓国の近代児童文学を語るうえでなくてはならない人物である。またマルチ的才能の持ち主としても知られ、文学史のみならず芸術史上においても多大な貢献をした作家である。

李周洪文学館は、釜山を訪れる際には一度は訪ねてみてほしい場所である。運がよければ先生の童謡をうたってくれる可愛いお孫さんに会うこともできる。



- ・開館日……火曜日～土曜日
(午前10時～午後5時)
- ・休館日……月曜日・日曜日・祝日
- ・問い合わせ (051) 552-1020

■李元寿文学館

釜山から車で一時間ほどのところにある慶尚南道昌原市の「李元寿文学館」。この街で大学を卒業したわたしにとっては一〇年ぶりの帰郷でもある。

李元寿文学館は児童文学作家李元寿（一九一〜八二）が幼いころ住んだ故郷で、韓国人ならだれもが口ずさむ童謡